

第 153 回 岐 阜 歯 科 学 会 例 会

- 1) 開催日 平成18年 2月25日 (土) 午後1時より
- 2) 会 場 朝日大学1号館3階 第1大講義室

特別講演

座長 関根 一郎 教授

1. 岐阜県歯科医師会における口腔保健事業の現状 ~成人口腔保健委員会事業から~

岐阜県歯科医師会常務理事
岡田東洋志 先生

○岐阜県歯科医師会の事業は、4事業部・9委員会で構成されている。

- ・会員事業部
学術委員会, 医療管理対策委員会, 厚生委員会
- ・社会保険部
社会保険委員会
- ・口腔保健事業部
母子・学校口腔保健委員会, 成人口腔保健委員会, 福祉医療委員会
- ・情報システム事業部
情報・調査委員会, 広報委員会

○その中で、演者が担当している口腔保健事業部・成人口腔保健委員会の事業について紹介したい。

事業費は、岐阜県歯科医師会、岐阜県、厚生労働省から成り立っているが、特に平成12年度から始まった8020運動推進特別事業（厚生労働省 補助率10/10）は、毎年度、1000万円単位で都道府県に交付され、岐阜県における8020運動推進の原動力となった。平成18年度、8020運動推進特別事業は、医療提供体制推進事業（統合補助金）に包含され補助率も不明である。

○平成17年度8020運動推進特別事業内容

- ・成人歯科疾患実態調査
- ・推進会議
8020推進会議, 地域歯科保健推進会議, 病診連携推進会議
- ・フッ化物応用推進事業
フッ化物応用推進会議, フッ化物応用推進研修会, フッ化物洗口モデル事業
- ・8020サポーター活動推進事業
- ・安全教育普及事業

○8020サポーター（約1000名育成）

…地域歯科保健をサポート

(食生活改善推進協議会員)

アンケート調査 (県民実態調査), 8020サポーター意識・行動調査

8020サポーターになってから、意識・行動に変容が認められる。

○健康増進事業実施者歯科保健支援モデル事業

事業所の医科健診実施率が高いが、歯科健診実施率は低調。

歯科健診、歯科保健事業などの重要性は認識しているが、実施率は低い。

密度の濃い歯科健診・歯科保健指導を実施した後、要受診者の受診率が高いが、歯科医療機関の受け入れ態勢の認識が不十分と思われる。

○歯科保健事業の実施にあたって

- ・事業目的の明確化 (有機的事業展開)
ボス・ウイン (ウイン・ウイン, 相互利益)
事業目標の設定 (本来あるべき姿の目標, 段階的解決)
- ・戦略 (ボス・ウイン, 段階的達成目標)
- ・戦術 (戦略を実行するための具体的手段)
- ・行政との関わり
継続事業 (継年度事業), 県民取り込み事業,
住民参加型事業→住民主体型事業

○まとめ

歯科医師会事業の在り方

- ・トップダウン方式の必要性 (ボトムアップは不要?)
事業立案, アクションプログラムの設定
- ・組織全体で事業ターゲットを設定し, 歯科医師会発の県民アピールを行う。
- ・登録医制…研修
全会員横並びの発想から, 得意分野での人材育成・確保の必要性
- ・社会性 (ニーズ, デイマーズへの呼応) …社会との協調
- ・県民を味方に (ボス・ウイン)

8020サポーターアンケート調査結果 資料

一人平均現在歯数

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	29.1	28.5	27.7	26.1	23.3	18.6	10.9
女	28.9	28.4	28	25.8	22.5	17.7	10.2
2000年	28.8	28.3	26.6	23.6	20.3	15.1	10.6
2005年	28.6	28.3	27	24.7	20.9	16.5	13.4

噛むことに満足していますか

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男 満足	80.0%	72.8%	72.8%	58.6%	58.4%	52.7%	37.6%
女 満足	79.0%	73.0%	66.5%	63.7%	60.0%	54.4%	44.0%
2000年	78.5%	71.3%	68.9%	62.3%	60.8%	59.0%	52.5%
2005年	72.8%	71.0%	61.6%	56.4%	59.0%	60.6%	59.0%

かかりつけ歯科医を持つ人の割合

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	52.2%	61.7%	71.9%	77.8%	87.4%	90.8%	87.1%
女	63.7%	80.6%	85.9%	88.1%	95.1%	93.1%	89.3%
2000年							81.7%
2005年							87.2%

8020運動を知っている人

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	38.9%	58.3%	65.0%	55.6%	58.7%	56.8%	40.0%
女	54.0%	71.7%	80.3%	72.8%	77.4%	56.7%	41.7%
2000年							51.8%
2005年							54.7%

喫煙と歯周病の関係を知る人

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	67.8%	64.1%	58.1%	57.7%	48.7%	44.9%	43.5%
女	79.0%	75.3%	68.4%	65.4%	57.0%	51.0%	56.0%
2000年							50.4%
2005年							63.3%

8020サポーターアンケート

家族や友人に歯の健康について話をしたか？

はい	94.3%
いいえ	5.7%

何人に話をしましたか

1～4人	77
5～9人	147
10～19人	124
20～29人	52
30～49人	32
50人以上	33

健康祭など歯科関係のイベントに参加したか

はい	52.8%
いいえ	47.2%

特別講演

座長 田村 康夫 教授

2. 新たな歯周治療と歯周組織研究を求めて

朝日大学歯学部 口腔感染医療学講座 歯周病学分野
 渋谷 俊昭 先生

歯周治療はこの20年で大きな変化をしてきました。歯周外科は切除療法から再生療法へ、歯科インプラントの応用、審美的歯周形成外科療法の試みなど枚挙に遑がありません。この時代のおかげで種々の最先端治療法に刺激され、積極的に試みることができました。組織再生誘導法、エムドゲインによる歯周組織再生法、最新の成長因子 FGF を用いた再生法についてその術式や経過、予後について報告します。また歯周組織の審美的改善を目的とした歯周形成外科療法としての各種術式の紹介を行います。さらに包括的歯科治療としての MTM やインプラント治療の応用についても紹介します。

近年、歯周病の原因にリスクファクターという概念が定着しつつあります。リスクファクターとしての喫煙や糖尿病、全身性疾患の関与について症例や基礎的研究を報告します。

基礎研究においては歯周病罹患患者の免疫学的変化について当時最先端のフローサイトメトリーを用いて、患者の抹消血中のリンパ球サブセットの分析を試み一連の報告を行いました。さらに歯周病原性細菌と免疫細胞サブセットの変動を抹消血リンパ球、免疫組織化学、ELISA での抗体価を検討し細菌種により免疫反応に差異があることを報告しました。免疫組織化学的手法により当時困難であった歯周組織中の細胞間マトリックス成分であるグリコサミノグリカンの局在の証明に成功しました。また酵素免疫測定法を応用し、歯肉溝滲出液中のグリコサミノグリカンの炎症時の変動や骨代謝マーカーの変動を報告しました。骨代謝に注目し、トロント大学では骨吸収に関与する破骨